

裏谷急沢登り報告

日程： 11/13（日曜日）

天気： 晴れ

山城： 西上州

ルート：裏谷急沢遡行 => 谷急山山頂 => 隣の尾根を下山

メンバー： CL 上茂、小原、萱野香（記録）

：時間： 入渓 7：30 柱状節理の大滝 10：20 三俣 11：20 谷急山山頂 12：25 終了 14：30

【12日土曜日の出来事】

※ 今年に入ってから妙義を訪れるのは 4 回目だ。今回のメンバーは、山行グループは違うものの先週もここへ来ている。脆い感じの岩や急な登り降りが多いしヒルも居るので大好きでは無いけれど、この時期に沢&できれば焚火を！と考えると妙義あたりしかないのかもという事でまたまた来妙義！そして女子会率高いなあ。

最初の予定では 11/12（土）に沢、11/13（日）に星穴岳を予定していたが、

11/12（土）千葉を 5：00 頃出発するも、関越道路の重大事故大渋滞により妙義到着が

10：00 過ぎになってしまい、その日の沢は諦めた...何もすることがないというかやる気が全く起きず、明日の沢の入渓地点と駐車スペースをチェックしたり、今回のメインイベントの一つでもある焚火ができる場所を選定したり。その後、小春日和の車内でしばらく昼寝をした。どうしようか〜と相談するも全員一致であり疲れのような行動はしたく無い。丁度、ロープワークの練習に良い場所を見つけて色々練習できた。本当に覚えてない事だらけで、練習できて良かった。沢中の焚火ではないけれど、川側にそんなに寒くなく燃やす木は豊富だし石でできた焚火台も先人の残してくれたものがあったし、とても快適かつ充実した楽しい焚火パーティーが出来た。また、焚火+何かで訪れたい♪ そう、結果オーライであった☆

【沢登り報告】

紅葉も見ごろといえれば見頃の時期なのだろうが、あまり鮮やかな色味ではない。

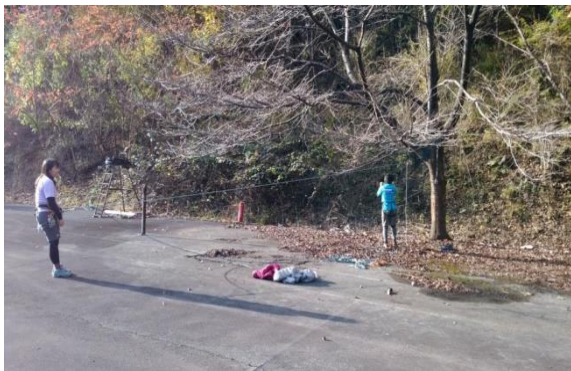
昨日、十分に偵察しておいたおかげでスムーズに現場へ到着し入渓する。

入山川対岸へ渡渉するとすぐに裏谷急沢出合いがでてくる。最初の方は初級という感じの滝などか続いた。3 段の大滝というところでロープを出してもらおう。3 人だけでも小一時間くらいは通過に要しよう。ロープは出してもらったものの灌木は頼りないし足場もぐずぐずで岩も脆いし怖い。慎重に進む。その後も巻きでトラバースするが、ぐずぐずで大変だ。さすが、沢女達は慣れたものだと思いきや後を付いていくのみ。しばらくすると柱状節理の滝が現れる。その先には思わず「ウォ〜」と叫んでしまうぐらい立派な 20m の柱状節理の大滝が現れるとガイド本に書いてあったので、みんなで本当かね〜と口ぐちに言いながら進むと突如現れた。女子なのでウォ〜とは言わなかったけれど、ワ〜ぐらいの立派な滝が現れた。後ろを振り返ると上信越道が下に見えるし、紅葉も思った以上に綺麗だ。この後に続く傾斜のある数百メートルも続くナメが厄介だった...ガイド本を見ただけで私はドキドキしていた。傾斜のあるナメ（そう、8 時だよ！全

員集合の急坂コントが頭に浮かぶ。)、流があるところは滑る、逆層気味、岩が剥がれやすい、滑ったら止まらない等と書いてあった。裏切られる事なく全くその通りだった。小さな突起を探して慎重に進もうとするが、大量の落ち葉に埋もれて足場が見えないし、栗の毬が指に突き刺されたり、もう最初から最後まで大変な四つん這いだった。途中で滑りそうになった時もあり自身がヒヤヒヤする場面もあったが、どうにか三俣へ到達するとその先はさらに急になる為、中俣と右俣の間の尾根に取り付いて稜線へと上り詰める。結局、この尾根もほとんど二足歩行はできなかった。西面に位置している為、ここまでは日に当たらず、うすら寒かったが、稜線に出た途端に日差しに照らされて暑くなる。稜線を左側に進むと谷急山の山頂へ出た。リーダーは先週もここで記念撮影をしている。まるで毎週末、谷急山へ通っている常連の人みたいだ。

この後の下山路も全く気が抜けなかった。地図と踏みあとを頼りにどんどん下山するが、かなり急だ。途中の岩場も両端が切れ落ちている。当然ながら、鎖もロープもない。正直、北アルプスの岩場より私は怖かった。途中、後ろを振り返るとあまりの急斜面にビクビクする。途中で柱状節理の大きな岩壁を左手側に眺めたりしながらで眺望は最高だったけれど、谷が急な山、最後まで気は抜く事はできなかった。目印の堰堤付近に無事に降りて来られたのだが、最後の入山川の渡渉でみんな靴を濡らしてしまった。「あゝー。」(by リーダー)

その後、毎度おなじみの「もみじの湯」へ入り、予想通りの交通渋滞と予想外の○原さんが高速に乗ってすぐに猛烈な眠気にも襲われるというハプニングもありましたが、無事に沢納山行となりました。



引き上げシステム練習中



ナイスな焚き火場所を見つける



宴会は続く…



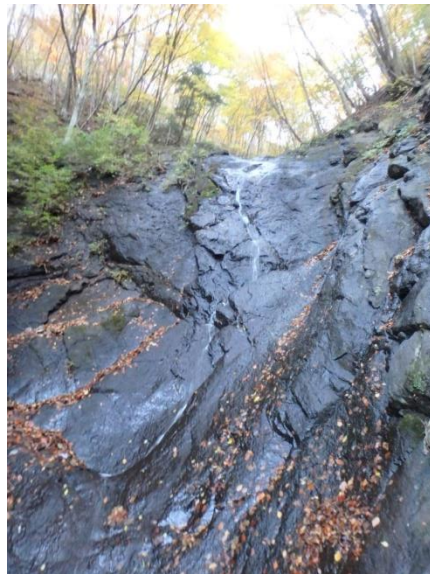
入溪



対岸へ



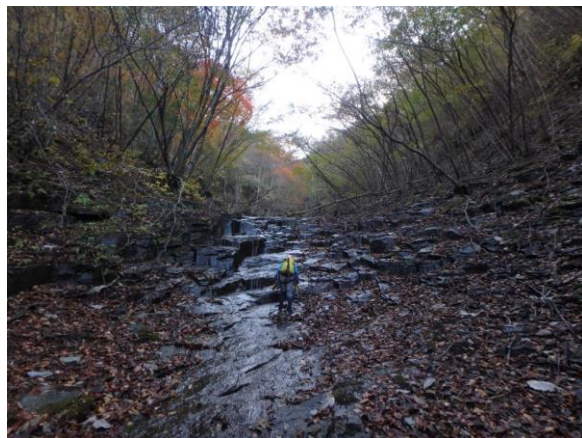
出会い



三段大滝



ロープを出して右側から巻く



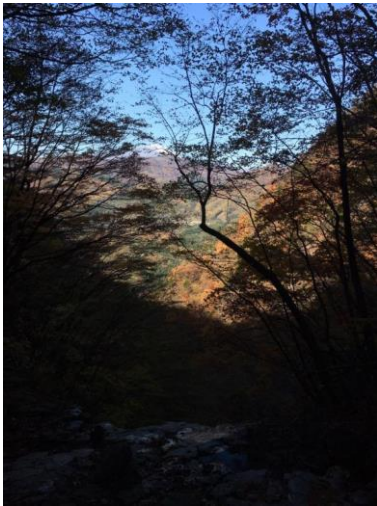
柱状節理の滝が続く



柱状節理の大滝現れる



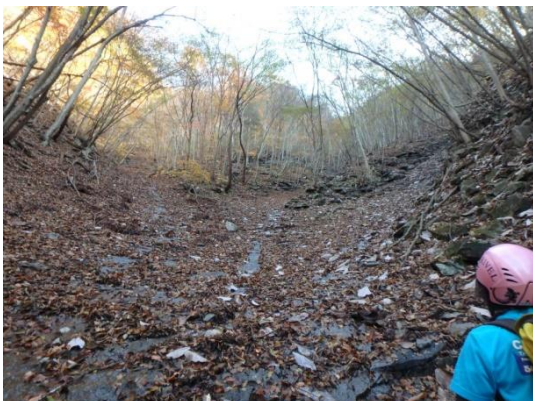
大滝の前で自撮り



振り返る



数百メートル続く傾斜のあるナメ



三俣



谷急山山頂



下山



柱状節理の岩壁



岩場



急な尾根を直降り